

金属工事ウーマン ～火花とともに生きる女～

本名：鳴瀬カナ

出身：大阪市・東大阪区

第2

（中小企業の町工場が密集するモノづくりの聖地）

生い立ち：カナは、母子家庭で育ち、小さな金属加工工場を営む母の背中を見て育った。溶接の火花、鉄の匂い、油にまみれた手—それが彼女の原風景。周囲の大人たちには「女の子なんやから別の道行き」と言われ続けるが、母はいつもこう言った。「鉄は、熱いうちに打て。夢もな。」

高校卒業後、大手企業の内定を蹴って、建設現場に飛び込む決断をする。男性中心の職場で偏見もあったが、誰よりも早く現場に入り、誰よりも遅くまで作業し、やがて“鉄を操る女”として一目置かれる存在に。

技術と信念：彼女の持ち味は、纖細かつ確実な溶接技術と現場での即応力。見た目の美しさにもこだわる仕上げの腕前は「芸術品レベル」とも言われる。ビス1本の位置にも意味を持たせる几帳面さと、天性の空間認識力で、大型建造物の安全性にも貢献。

転機：あるビル工事の現場で、大型パネルが寸分の狂いもなく設置され、それを見た監督がつぶやいた。「これを設計図どおりに収められるのは、金属工事ウーマンだけや。」この言葉がきっかけで、全国の現場から指名が入るよう。今では若手女性職人の育成にも力を入れ、「女性が当たり前に現場に立てる未来」を目指している。

座右の銘：「金属は、想いも形にできる。」

